

平成 25 年度施策マネジメントシート1(平成24年度実績の評価)

作成日 平成 25 年 8 月 29 日

総合 計画 体系	政策名	Ⅲ 地域で支えあうくらしづくり 《保健・医療・福祉》	施策主管課	長寿障がい福祉課
	施策名	19 障がい者福祉の充実	施策統括課長	内田 孝夫
			関係課	健康福祉総務課,健康推進課,学校教育課,保健福祉課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)		対象指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
	市民	A	人口	人口	人	実績	42,428	41,917	41,159	40,548		
見込								41,159	40,548	40,440	39,949	
実績												
見込												
B						実績						
						見込						
						実績						
						見込						
C						実績						
						見込						
						実績						
						見込						
②意図(どのような状態にするのか)		成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度		
日常生活を支障なく、いきいきと安心して暮らす。	A	自立支援サービス支給決定者数	人数	実績	506	443	451	445				
				目標			500	500	500	500		
				実績	24.2	25.7	24.9	27.9				
				目標			26.0	26.0	28.0	30.0		
B	障がい者が社会参加しやすい環境であると感じている市民の割合	%	実績	49・25	81・25	121・45	79・47					
			目標			51・27	52・28	53・29	53・30			
			実績									
			目標									
C	ハローワーク雲南(雲南圏域)での紹介件数・就職件数	件	実績									
			目標									
			実績									
			目標									
D					実績							
					目標							
					実績							
					目標							
成果指標設定の考え方(成果指標設定の理由)		A)障がいの程度に合わせて、サービスを利用してもらうことで支障を取り除いてもらっているかどうかを把握できると考えた。 B)日常生活が支障なく送られているかどうかは、社会参加しやすい環境かどうかがバロメーターになると考えた。 C)安心して暮らしていくためには、雇用促進が必要であると考えた。										
成果指標の測定企画(実績値の把握方法)		A)長寿障がい福祉課 B)市民アンケート調査で把握「あなたは、障がいのある方が社会参加しやすい環境であると感じますか？」 C)公共職業安定所で把握										
目標設定とその根拠(基本計画策定時)		A)自立支援サービス利用決定者数は、少しずつ伸びてきているが、対象者の状況を考え、H21水準の維持を目標とした。 B)障がい者が社会参加しやすい環境であると感じている市民の割合は、全国的に障がい者が社会参加しやすい環境づくりが進んでいるため、成行値は少しずつ上昇すると予測する。目標値は様々な対策の実施により、最終年度で現状から約5ポイント増加するよう設定した。 C)雲南圏域の企業への障がい者の紹介件数・就職件数は、大幅な増加は難しいが、今後ますます企業の社会的責務も問われてくるため、増加要因として作用するはずだと考え、少しずつ増加するよう設定した。										

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① 自立と社会参加の促進	障がいがある市民	社会参加できるようにする。	障がい者が社会参加しやすい環境であると感じる市民の割合	%	実績	24.2	25.7	24.9	27.9		
② 相談体制の強化	市民	障がいに関することについて気軽に相談できるようにする。	相談件数(事業所の相談員が受けた件数)	件	実績	19,661(H20)	19,364	15,626	16,210		
③ 福祉サービスの充実	障がいがある市民	安心して暮らす。	自立支援サービス利用件数	件	実績	6,874	6,829	6,895	7,576		
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある方やその家族は、関係機関・障がい者団体等とのつながりを持ち、困った時は相談し、支援の必要な方は積極的に支援を求め、また、行事等積極的に参加する。</li> <li>障がい者団体は、魅力ある活動の展開に努める。</li> <li>住民は、障がいの理解を深め、ボランティア活動への積極的な参加、見守りや声掛けを行う。</li> <li>協働により災害時・緊急時の支援体制を構築し、事業所は雇用・就労を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅福祉サービス・相談の支援充実、地域生活への移行支援などを図る。</li> <li>障がいの早期発見と保健指導の充実、医療費助成事業の充実を図る。</li> <li>施設の段差解消などの整備改善、安全に使用できる舗道への整備などを図る。(バリアフリー)</li> <li>人権教育、福祉教育の充実を図る。(ノーマライゼーションの推進)</li> </ul>
②	A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して)	B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
状況変化	○障がいにかかる手帳所持者数は、現在約3,100人、その他医療証所持者等は967人であり増加傾向である。○手帳所持者の身体障がい者数は微増、知的障がい者数、精神障がい者数は増加傾向。また、自立支援医療(精神通院)受給者も増加傾向となっている。○障害者自立支援法がH25年4月に障害者総合支援法に改正されたことにより、更に地域移行・社会参加を進めていくことになる。○出雲養護学校の雲南分教室がH27年度の開校が決定した。	○障がい者の移動の不便さ解消(市民バスの低床化、電光掲示板、車内放送など、障がい種別に合わせたサービス提供)、精神科外来の充実、障がい者にやさしい住宅の確保、市民の障がい者への理解、災害時・緊急時対応の充実、就労支援施設の充実などを、障がい者やその親族などから求められている。○議会からは福祉施設の充実、バリアフリー化の推進、災害時の支援などが求められている。

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	背景・要因
<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○松江市や出雲市に比べると、サービス事業所数が少なく、利用者の選択肢が少ない。</li> <li>○特別支援学校が市内にはなく、家族の負担が大きい。(近隣では、松江市と出雲市のみにある。雲南市にはH27年度開校予定)</li> <li>○他市に比べ、企業の絶対数が少ないため、就労支援の協力を要請できる企業数が少ない。</li> </ul>

平成25年度施策マネジメントシート2(平成24年度実績の評価)

《19 障がい者福祉の充実》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○障がい者が社会参加しやすい環境であると感じる市民の割合は、微増した。 ○ハローワーク雲南(雲南圏域)での紹介件数は減ったが、就職件数は増加した。紹介し就職につながった割合は59.5%であり増加した。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○障がい者が社会参加しやすいと感じる割合は、目標を上回った。 ○ハローワーク雲南(雲南圏域)での紹介件数、就職件数とも目標を上回り、紹介し就職につながった割合は、目標値から算定すると53.8%、対して実績値59.5%という状況であった。

基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① 自立と社会参加の促進	・障がいに対する理解を求める啓発活動を行っているが、引き続き理解向上を図る必要がある。・難病患者の交流会への移動支援を行い、参加の拡大を図った。・障がい者(児)親の会との連携を図り、島根県に特別支援学級の整備を求め、H27年度開校が決定された。・スペシャルオリンピックスの島根県の事務局が設置された。
② 相談体制の強化	・障がい者虐待防止支援センターを設置した。・雲南圏域の自立支援協議会を設置し、相談体制等の強化と連携を図った。・基幹型相談支援事業の事業者の設置について調整し、H25年度開設の予定である。・さくら教室において保育所等訪問支援事業を開始した。
③ 福祉サービスの充実	・障がい者個々に対するサービス利用計画を作成し、H26年度までに全対象者について完成するよう取り組んでいく。
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策	○地域全体で障がいへの理解を深めていく必要がある。 ○相談支援の体制を強化していく必要がある。	○住み慣れた地域で、地域と関わりをもち、生きがいをもって、いきいきと安心して暮らせる環境整備を図る。
基本事業	① 自立と社会参加の促進	○住民への啓発活動を行う。○手話通訳、要約筆記の人材を養成、確保していく。○ハローワーク、アーチ(障がい者生活・就業支援センター)及び事業者と連携を図り、職場実習・就労支援を行う。○障がい者のスポーツやイベント等への参加を促進していく。
	② 相談体制の強化	○自立支援協議会の地域生活支援部会で実施しているケース検討会議を充実させていく。 ○サービス事業所に働きかけ、指定相談事業所を増やしていく。 ○障がい者虐待防止に向けて事業所等との連携を強化していく。
	③ 福祉サービスの充実	○地域活動支援センター、デイサービスなど、日中サービスの充実を図る。 ○移動支援について、バス・タクシー利用助成事業の制度の継続・充実を図る。
	④	
	⑤	